

職員のデジタルリテラシー向上を図りながら、自法人のDXを進めるとともに、行政なども巻き込み「誰もが活かし合う共生社会DX」を推進する計画を策定。

社会福祉法人ふらっと				http://s-flat.or.jp/	
本社所在地	松江市北田町269	資本金	-	事業概要	多機能型事業所運営、就労継続支援A型事業所運営、就労継続支援B型事業所運営、相談支援事業所運営、地域活動支援センター運営
代表者名	新田裕之	従業員数	22名		
設立年	2002年	業種	サービス業		

背景

- 障害福祉サービスを提供しているが、基本的な報酬請求ソフトを活用している以外はデジタルツール活用が不十分であり、デジタルツール活用による業務の効率化と可視化が課題と捉えている。
- 一方で、デジタルツールに苦手意識がある職員が多く、障害者の就労サポートにデジタルツールを活かす方法（手段）がわからない現状もある。DXを推進するにあたっては意識改革が必要だと認識している。
- 当法人は、障害の有無に関わらず、すべての人が個性を活かし合う共生社会の実現を理念としており、デジタル技術は障害による能力差を埋め、障害者に恩恵をもたらす可能性を秘めていると期待している。
- 職員と事業所利用者のデジタルリテラシーが向上することで、障害者の就労機会拡大と地域生活の向上を目指したいと考えている。

計画の骨子

課題の整理

- ▶ 職員へのヒアリングや現場視察を通じた課題の詳細化により、DX推進の阻害要因として職員のデジタルリテラシー不足が再認識された。

「誰もが活かし合う共生社会DX」の実現に向けて

- ▶ DX推進に向けて、業務改革の基盤となる「共通基盤の整備」と職員のデジタルリテラシー向上を目的とした「職員向けデジタル教育の実施」を重要取組施策に位置付け、基盤となるクラウドサービスや就労継続支援事業で活用できるタスク管理ツール等の導入に向けた計画や、職員研修の計画を策定した。
- ▶ 当法人の施策取組を通じて、中期的には、他の社会福祉法人への展開や、アナログ要素の多い行政も巻き込んだ障害福祉全体のDX推進も目論む。